

シリーズ1回目は、日展(日本美術展覧会)彫刻部門で、11年間連続で入選(無鑑査含む)し、2002年に続き、2007年に2回目の特選受賞に輝いた藤原健太郎さんにお会いして、おはなしをお聞きしました。



ふじわらけんたろう  
藤原健太郎氏

略歴

1974年玖島2丁目生まれ、33歳、現在、妻・子どもの6人家族。  
長崎大学教育学部で美術科を専攻、在学中に彫刻を始め、1997年大学院在学中に県展で県知事賞、西望平和賞を受賞。同年に日展に初入選、翌年、日彫展で奨励賞を受賞。  
大学院在学時には韓国大邱市の慶北大学校に1年間留学。大学院卒業後、長崎市立桜馬場中学校の美術教諭として教壇に立つ。現在は彼杵中学校教諭。今富町在住。

このコーナーは、まちのほっとな話題を取材し、皆さんにご紹介します。

HOT-TIME



幼稚園の時、「母の日」に描いた「おかあさん」

どんな子ども時代でしたか?

とにかく動物や昆虫などの生き物が好きでした。幼稚園の時に教室に迷い込んだトンボを採りたくて、竹箒を振り回して先生に注意された。母から聞いています。  
また、そのころ家の中には、生き物を飼う容器がずらりと並んでいて、クワガタ、カマキリ、サンショウウオ、アカハラ、オケラなどを育てていました。  
小学校では、飼育係を担当しました。飼育しているチャボを連れて遠足に行ったことや、鳥小屋の高い所から産み落とす卵が割れないように、始業のチャイムが鳴ったのも気づかずに、ニワトリの下で手のひらを広げてじっと待っていたことなど、なつかしい思い出ですね。

特選作品についてお聞かせください

特選1作目「At the border II」(2002年)「交錯する自己」(2000年)より意思の中で力強く生きようとする人間の本質を表現したかった作品です。



特選2作目「汀」(2007年)「彫刻制作13年目の作品で、彫刻を始めたころの創る喜びを思い出しながら、初心に帰って制作しました。今まで多くの支えがありましたが、特に彫刻を指導して頂いた先生や、精神的にも経済的にもいつも支えてくれた両親や家族に対して感謝の気持ちを持ち挑戦しました。」

「汀」という作品名は、1歳の時に他界した祖父が私に命名したかった名前だと聞いていたので、初心に返る意味も含めてつけました。



第39回日展彫刻部門で特選を受賞した作品「汀」

これからの取り組みは

これからもいろいろな壁にぶつかると思いますが、あまりよく考えないで、どんな作品を創造できるのかを楽しみにして制作していきたいと思っています。  
最初は、入選・落選を意識することもありませんでしたが、今は、作品を観賞して下さる人に、どれだけ制作意図を伝えることができるかに専念しています。

作品を世に出す責任を強く感じながらも、創作の喜びはいつまでも持ち続け、制作できることに感謝を忘れずに今後も取り組んでいきたいですね。  
いつかは、自分の作品を市民の皆さんに観てもらえる機会をつくりたいですね。

後記

藤原さんは、高校・大学時代に射撃部に所属、大学時代は全国大会にも出場する腕前だったそうです。彫刻とは別の世界ですが、もしかしたら射撃部で培ったその集中力が、彫刻制作に大きく活かされているのかも知れませんね。  
アトリエまで押しかけた取材に、快くお迎えしていただきありがとうございました。



藤原さんご家族、自宅アトリエにて